

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 すみれ)

事業所番号	0672300381		
法人名	社会福祉法人 さくら福祉会		
事業所名	グループホームかほく		
所在地	山形県西村山郡河北町谷地字砂田207-1		
自己評価作成日	平成28年 9月 9日	開設年月日	平成16年 7月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームかほくでは「かほくで ほっとする くらし」を合言葉にご利用者の皆様に笑顔で穏やかに過ごしてもらえるように日々取り組んでいます。またユニット毎にもユニット心得を定め、ご利用者様が日々の生活に張りりと生きがいを持って貰えるように支援しています。
河北町は四季の変化に富み、恵まれた自然環境にあります。このよりよい環境を活かしながら外出や地域の行事にも出来る限り参加させて頂いて慣れ親しんだ地域で過ごしてもらえるように支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 28年 9月 27日	評価結果決定日	平成 28年 10月 18日

開設から12年が経ち、新管理者のもと気持ちも新たに理念に添った利用者主役の支援に取り組んでいます。それはユニット間をオープンにして、やりたいことを居たい場所で自由に過ごす満足した表情からも窺うことができます。連携した見守りで職員同士助け合いながら、「グループホームかほく」がめざす温かな事業所づくりに家族等からも信頼と感謝の気持ちをもたらしています。また、地域のロータリー花壇の清掃や近くの認知症カフェに出かけるなど、出来ることをやってもらい、いきいき楽しく暮らせる毎日をサポートして生きがいのある暮らしを提供しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の経営理念を元にしなが、事業所としての理念とユニットごとの心得を作成し、毎日の朝の申し送り時に唱和し理念に沿ったケアが出来るように心掛けている。	職員の思いが込められた事業所理念と心得を日々のケアの指針にして取り組んでいる。利用者には一人ひとりに合った生活を思い思いの場所でゆったりと過ごしてもらい、安心と笑顔ある暮らしを支えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年6月から11月まで、地域のロータリーの花壇の清掃に参加している。利用者の方と共に一緒に参加している。	事業所の活動や熱中症予防などを紹介した「かほく通信」を町内の回覧版で発信して地域からの理解や周知を図っている。また、小中学生の訪問、歌や踊りなど様々なボランティアを受け入れ、利用者も交流を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	かほく通信(広報)を作成し地域で回覧してもらっている。事業所での活動の様子などを掲載するなどし、事業所での取り組みを紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町職員、町内会長、民生委員、ご家族代表、ご利用者代表に参加してもらい2ヶ月に1回開催し入居者の状況や活動内容などを報告し地域行事の情報や質問、意見をいただいている。	定期的に開催し参加者との情報や意見交換を行っている。回を重ねるごとに参加者や進行の流れが慣例的になってきている所は事業所にとっても今後の検討課題となっている。	開設して12年となり、これからの会議のあり方を検討している状況は評価できる。地域や行政の協力も得て活性化にむけた取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営面や介護保険、諸手続きの疑問等は、担当者に問い合わせ、相談し、適切な返答を頂いている。又、町の介護保険サービス調整会議構成員になっており、様々な情報を共有している。	町職員とは良好な関係を築きながら事業所への理解と協力をもらっている。町の介護保険サービス調整会議には地域のグループホームや小規模多機能型事業所、ケアマネジャー等が参加して情報交換を行い、サービスや業務に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束についての外部研修への参加、事業所内の勉強会で身体拘束の具体的な行為や弊害について理解を深めるように努めている。身体拘束廃止委員会を設け職員会議の際に状況を確認し拘束のないケアに努めている。	身体拘束廃止委員会で項目ごとにチェックしながら身体拘束ゼロにむけて取り組んでいる。外出したがる利用者はケアプランに組み込んで対応し、ユニット間の垣根を越えた連携で職員同士助け合いながら見守る体制が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内外の研修を通して、虐待の防止に関する理解を深めるようにしている。入居者についての共通認識、対応について、申し送り時のミーティングや職員会議、ケース会議等で協議、検討をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、1名の対象者がおり後見人がついている。研修会や勉強会の機会をもう少し活用し全職員が理解をもっと深めていけるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安なく入居できるように十分な説明の時間を取って説明している。又、わかりやすい言葉で、説明するように心掛け、質疑があった場合にはその都度再度説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に日頃の様子を報告しながら意見や要望をお聞きしている。玄関に「意見箱」を置き、意見や要望、苦情を記入し出せる体制をとっている。年1度ではあるがご家族とのお茶会として懇談の機会を作っている。	日頃は受診の付き添いで訪れる家族等や面会時に情報を共有し意見の反映に努めている。また、暮らしづりがわかる写真と担当者のコメントを載せたお便りを毎月届けると共に、恒例の「お茶会」では忌憚なく話し合い事業所や法人で出来ることを伝えている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回職員会議を行って、職員の意見、提案を聞く機会を設けている。又、常日頃から意見を出しやすい雰囲気作り心にかけている。法人の月1回のブロック会議で管理者は、意見や提案を出しブロック長を通して代表者へ届くようになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、本人の体調面、意向の確認を定期的に設けている。資格取得を積極的にサポートしている。毎年、定期的な給与アップ等を図り、向上心を持って働けるような工夫、整備に努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験と習熟度に応じ、年1回以上の外部研修参加の機会を設けている。研修後は、伝達研修をして情報共有に努めている。勉強会の年間計画があり、月1回、テーマに沿った内部研修を行っている。また法人での研修会の機会もある。	外・内部・法人と研修も充実しており、月1回の勉強会は講師になる担当職員が資料等を準備するなど、より身に付く育成の場となっている。心肺蘇生の研修は全職員が受講して緊急時の対応と安心に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	町の介護保険サービス調整会議、グループホーム連絡協議会に加入し、研修や交換実習に参加している。当法人内でも各委員会の開催により職員同士のネットワーク強化になっている。	管理者は同業者が集まる会議に積極的に参加して情報交換を行い、サービスの質向上を図っている。また、職員の交換実習では参加と受け入れもしており、他事業所との交流が実践に役立つ体験となって活かされている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時での、ご家族様ケアマネ様等からの情報を元に、ご本人様が入居時に、少しでも不安にならないような対応が出来るよう留意している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時での、ご家族様の抱えている不安や悩みお聞きし、又施設に対してどのような考えや思いを持っているか等を理解し、どの様に支援していけるのか共に考え良い関係づくりに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様を支援していく上で、随時ヒヤリングを行い、必要と感じた際には、他のサービスの利用も含めた情報提供が出来るよう体制を整えている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの力に応じた作業や活動を一緒に行い、共に生活をしているという関係づくりに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と共に考えていける関係性を築けるように努め、ご家族様の状況を理解した上で、可能な限り協力して頂ける様な関係づくりに努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様とも話し合いながら、施設で出来る範囲での対応と、ご家族様での対応を両立させ、出来るだけ馴染みのある人と会えるよう支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご本人様の性格を理解し、利用者様同士が助け合いながら、楽しめる共有スペースづくりに努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設の近隣に入院されている方には折りを見てお見舞いに出掛け、相談や支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常、利用者との関わりを大事に傾聴し本人の意向や思いに寄り添った介護が出来る様努めている。	利用者の話をよく傾聴することから思いや意向を汲みとり、家族等からの情報も得て、希望に添える支援に努めている。業務日誌や申し送り等で職員間で共有し話し合いながら、本人主役の暮らし方を一番にしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に、生活歴や趣味等をご家族の方からお聞きし利用者様の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々、様子観察し利用者様の変化や出来事を記録や申し送り・ケース会議等で現状の把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングやケース会議にて現状の見直しを図っている。それを基に介護計画を作成し、家族にも説明の上同意して頂いている。	利用者が出来ること、今出来ていることをプラン作成の基本にしている。日々の詳細なモニタリング等は法人で統一した介護個人記録用紙に記録して状況と課題を明確にし、計画の見直しに繋げている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子を個別に記録し、申し送り ケース会議等で情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しに活かしている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校のボランティアや歌・そば打ち見学等と様々なボランティアを受け入れている。また地域の事業にも参加している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については御家族様と相談している。受診の際は家族の協力体制を確認し支援している。また、ご家族様の希望により往診受診も対応している。他にも、定期的な口腔ケアに努めている。	利用者・家族等の希望する医療機関をかかりつけ医とし、通院介助は基本的には家族等の協力を得ているが、不可能な時や緊急時は職員が行っている。希望者には往診や訪問歯科ケアにも対応しており、結果は家族等と情報を共有している。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の身体的状況を報告し、処置のある方や体調変化がある方はその都度対応している。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、医師や家族と連携、情報の共有を行い安心して治療できるように対応している。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合の説明をし同意を得ています。家族の希望があれば、医師と十分に話し合いをし連携して看取りも実践していくつもりである。	法人で作成した指針を基に利用開始時に家族等に説明している。状況変化に応じて家族等と話し合いを重ね、事業所は情報を提供して方針を統一し、希望に添えるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備え、消防署より心肺蘇生法やAEDの訓練を行っている。法人での研修も予定されており全職員が救急講習を受講出来るようにしていきたい。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災通報訓練を実施。災害時、即対応できるよう消防署と連携し実践的な訓練をしている。又、災害用の食料を備蓄し災害に備えている。ただ、地域の方々との連携という面ではまだまだ出ていない為、今後の課題である。	隣接する同法人のデイサービス「さくらの家」と合同で、消防署の協力を得た総合避難訓練をはじめ、夜間の急患対応等の訓練を年数回実施している。地域とは災害時の協力体制の構築までは至っていない。	事業所独自のマニュアルを作成して緊急時に備え、町内会や運営推進会議等で地域に連携や協力体制を働きかけ、実現に向けた取り組みに期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、プライバシーを損ねないよう笑顔で一人ひとりに合った対応を行っている。	傍に寄り添い一人ひとりに合った声掛けをし、親しい中にも礼儀をふまえた対応を心掛けている。入浴や排泄等の羞恥心を伴うものには、希望があれば可能な限り同性介助で対応している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴、声掛けにて利用者様の思いや希望に沿った支援ができるよう働きかけている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースに合わせた支援ができるように努めている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせた服装や、出張で来て頂いてる理容室を使用したり、定期的に爪切り等で身だしなみをしっかり整えられるよう支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月々の行事やバイキングメニューなど取り入れ、一人ひとりが食事の時間が楽しくなるような工夫をしている。また、食器拭きなど手伝っていただいている。	おかずのみ配食サービスを利用し、ご飯とみそ汁は事業所で作り、おかゆ、きざみ、代替食等にも対応している。毎月の手作りおやつ・行事食・バイキング・出前・誕生日のリクエスト食等を取り入れ、楽しみな食事に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の作成した献立に基づいた食事を、一人ひとりの体調に合わせて刻みやほぐしを入れて提供している。また、十分に水分補給出来るような様々な飲み物を提供している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人で出来る方には十分な声掛けを行い、ケアが必要な方には毎食後口腔内を清潔に保てるよう介助を行っている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりに合った声掛けを行い、訴えない方、少ない方には観察を行いケアが必要な時には無理なく対応出来るよう人格を尊重することを心掛けている。	介護個人記録により一人ひとりの排泄パターンを把握して声掛け誘導し、日中はほとんどの利用者がトイレで排泄している。便秘予防を工夫して、失敗時には羞恥心や自尊心に配慮している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	担当医の処方を踏まえながら、便秘にならないよう水分をこまめに摂取し、リハビリ体操・運動系のレクレーション等を取り入れている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	個々の皮膚状態に合わせて、脱脂力の少ない固形石鹸を使用したり、入浴が楽しめるよう入浴順や入浴剤の活用など毎回工夫して介助に当たっている。	ユニット毎の個浴や身体状況に合わせて隣接するデイサービスの機械浴も活用している。午前中の中の入浴を基本とし、これまでの習慣や温度等の希望に添えるようにしている。職員とゆっくり話が出来るとてもあり、くつろいだ気分でも本音が出る時もある。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの好みに合わせて寝具を整え安眠出来るよう心掛けている。寝間着も無理強いわずなるべくリラックスできる状態の服装に声掛けしている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	担当者が薬の内容を把握し、体調の変化があった時など職員間で連携し医療機関やケアマネなどにも報告し、状態に合った支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者には、自分の部屋のモップ掛け、その他洗濯物干し、たたみ、テーブル拭きなど手伝って頂いている。毎日の生活に張り合いのある楽しい生活が出来る様、体を動かす、体操、軽体操を取り入れるなど努めている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季に応じて、花見、つつじ見学、あじさい見学などその時期に合ったドライブなど計画し出掛けている。また、家族と相談し外出、外泊が出来る様に支援している。	季節に合わせた花見等の外出を計画し、車いすの方も一緒に数人ずつに分けてドライブに出かけ、自然の変化を味わっている。個別の買い物にも対応して、近隣の散歩や地域の花壇清掃等に参加しながら気分転換を図っている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人管理が難しいため、ホームでお金を預かり欲しい物があれば一緒に同行し支援している。小額手元でもっている方もいる。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの要望があれば電話をしたり、電話の声が聞き取れない方には本人に代わり用件を伝えるなど支援し、正月近くになると年賀状を書いて頂くなどしている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール、廊下に椅子、ソファがあり自由に座ってくつろいでもらったり、季節を取り入れた塗り絵や利用者の作品を飾り、居心地よく過ごせるよう工夫し支援している。	毎週、書道講師の来訪があり、ホールには利用者の作品・カレンダー・行事の写真・生花等が掲示して季節を感じている。清潔にして感染症予防に力を入れ、利用者の関係作りや定位置を考慮して居心地よい雰囲気を大切にしている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全室個室なので一人で自由に過ごしたい時は自分の部屋で過ごしています。またホールにはソファがあり気の合った利用者とは自由におしゃべりなどして楽しんでいきます。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた物を持参して頂き生活歴や状況に合わせて、畳、フローリングどちらでも対応できるように居心地よく過ごせる工夫をし生活して頂いている。	居室入り口には名前を大きく書いた貼り紙や目印になるものを飾りつけて、間違えないような工夫をしている。ベッドの位置も利用者の希望や身体状況に合わせて、畳敷きやセンサーを利用して安全に落ち着いて過ごせるように支援している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のできることを活かし、自立した生活が送れるよう支援し廊下、トイレ、居室に手すりを取り付ける。またトイレ、自分の部屋の場所がわかるよう掲示し迷わないよう支援している。		